

科学と社会委員会 メディア懇談分科会（第24期・第9回）
議事要旨

日時：令和2年4月24日（木）13：15～15：00

場所：ビデオ開催

出席者：渡辺委員長、土生副委員長、山極委員、三成委員、武内委員、赤坂委員、遠藤委員

議題：

1. 次回学術フォーラムのプログラムについて
2. 今後の活動について
3. その他

配布資料

資料1 前回議事要旨

資料2 学術フォーラムフライヤー

資料3 HP アクセスランキングTOP30（2020年1月1日～3月19日）

資料4 科学と社会委員会メディア懇談分科会委員名簿

議事内容：

前回議事要旨について

資料1に基づき、渡辺委員長から前回議事要旨について確認があった。

学術フォーラムについて

資料2に基づき、渡辺委員長より7月16日開催予定の学術フォーラムの現在の検討状況について説明後、質疑応答がされた。

○新型コロナウイルス感染症（新型コロナ）を踏まえた開催形式について

- ・7月に学術会議の講堂で開催することはリスクが高い。
- ・会場での開催、ネット開催のどちらか一方ではなく、中間的に両方を組み合わせた開催の形も考えられる。参加者によって考え方も異なるため、様々な選択肢があつてよい。
- ・開催後に動画をホームページ（HP）に掲載すれば、開催日時に参加できない方も視聴できる。
- ・むしろ、この事態を積極的にとらえることで、海外の方をわざわざ日本に招聘しなくても中継で参加いただき、今後のメディアの在り方のモデルとなるという考え方もある。
- ・今回の感染症拡大を機会に世界がネットにつながっていくことを示せばよい。
- ・日本記者クラブも記者会見をバーチャルで開催している。7月だと発信側も受信側もネットに抵抗がなくなり、ノウハウも積まれるので、積極的に活用すべき。

○パネル討論について

- ・前のプログラムの講演1～4の内容を踏まえ、メディア懇談分科会の委員が加わって討論すればよいのではないか。
- ・若い世代や市民社会を代表するような人も、パネリストとして考えられる。
- ・現在の登壇者には自然科学系が多い。人文社会系もパネリストを入れるとよい。
- ・新型コロナ以前からフェイクニュースが社会的な大きな混乱の一つとなっている。情報

への疑いを持つ心構えについて発信できたらよいのではないか。

→インターネットリテラシーについては、講演3のなかむら先生や講演4の喜連川先生から話があるはずである。

- ・海外メディアに日本についてネガティブな情報が流れている。専門家から今後のワクチンの見通しなどの話があればインパクトがある。
- ・国際報道について関心を持っている方も多い。様々な報道が国境を越えて飛び交っているが、実際にはエビデンスが少ないのが問題。
- ・信頼できる情報へのアクセスの方法が確定しない中で、発信の仕方を提供するのが重要。将来に向けての規制について、メディア、科学者、政府、一般に対して何らかの提言ができるとうい。

日本学術会議における情報の発信について

○現状について

- ・日本学術会議は第24期では対話を重視し、記者会見も定期的に行っているが、今は新型コロナの影響により実施できていない。例えば、HPに「科学の窓」などと名称をつけたコラムのページを作り、記者からオンラインで質問を受け付けて、関係する委員会から回答するのも一つの方法になり得る。
- ・ネットワークを使えば記者会見をやめる必要はない。広報委員会のミッションとして検討する。

○外部との連携の情報発信について

- ・日本記者クラブではネットで会見をやっている。もし日本学術会議が世界への情報発信を検討しているのであれば、簡単なのは記者クラブを利用することである。これならばすぐにでも対応可能であるし、広報も全国に対してできる。
- ・フォーリンプレスセンターも同じくライブ配信をやりたいと思っている。現在は、BBCやCNNから日本の印象的な発言を行う方の発言ばかりが世界に流れている。もっとバランスある情報を流してもらえ方に出ていただきたい。

【開催の形式】

- ・日本記者クラブ：説明30分程度、質疑応答30分程度、最大で1時間半くらい。日本語でも対応可能。
- ・フォーリンプレスセンター：説明30～45分程度、質疑応答も含め全体で1時間半程度。同時通訳をつけることも可能。

日本学術会議ホームページについて

渡辺委員長より、資料3に基づいて、日本学術会議ホームページのアクセスランキングについて説明がされ、その後質疑応答があった

○閲覧数について

- ・おもしろ情報館は情報が古いが閲覧者数は多い。学術会議の情報発信と一般の受け手の間にギャップがある。ここがヒットしているのは興味深い。この種のものを広げていきたい。
- ・おもしろ情報館は中高生向けのコンテンツであり、記事の更新がずっとされていないが、

教育効果が高いのか閲覧者が多い。今後、動画の掲載も可能であれば、おもしろ情報館にもリンクをするなどの方法も考えられる。今期中の対応は難しいかもしれないが、来期はHP 検討委員会でも検討したい。

- ・学術会議のHPはSNSに連携させているのか。提言・報告の閲覧者数が少ないのでもっと多くの人に見てもらいたい。
→学術会議のTwitterは主にシンポジウムのお知らせを行っている。今後は、意思の表出についても公表時にTwitterに情報を掲載することとする。(2020年4月以降公表分)
- ・SDGsも閲覧数で上位になっている。このページでは、目標ごとに関係する提言とその概要を説明、キーワードもついてアピールしやすい。新型コロナについても、関連した提言のリンクをまとめれば、一般にも興味を持ってもらえるのではないかな。
→現在、新型コロナに関する特設サイトを第2部が準備中。日本学術会議の情報だけでなく、外部の関係するページにリンクを張ることも検討している。
- ・新型コロナに直接関係する提言だけでなく、例えば、アフリカ豚熱などの提言(4月16日に公表)も関連する提言として掲載すべきではないか。この提言は、平時だったらぜひ記者会見をしたかった。広い意味で関連なので、トップページに乗せていただくとメディアも上げやすい。関連の幅を広げたほうが良い。
- ・提言は一般の人がアクセスして全部読むのは難しい。メディアに優しく解説していただく必要があると思う。
- ・日本科学未来館は学芸員やコミュニケーターがいる。日本学術会議もそういう科学者と市民をつなぐ役割の人員が必要。メディアと協力してできないものか。

○日本科学未来館との協力について

- ・日本科学未来館との協力については、先方の意向もあるが、先方はコミュニケーターの活躍の場があれば連携できると言っている。
→未来館には渡辺委員長から相談する。今期中に協力の方向だけでも確認できるとよい。

○提言のページについて

- ・日本学術会議のHPについて、意思の表出は提言本体が掲載されているのみであるが、学術フォーラムや公開シンポジウムはイベントごとの説明ページがありわかりやすい。改善は可能かと思うので見せ方を工夫したい。
- ・提言を幹事会に諮る際のチェックシートで概要を作成いただいております、そこに材料はある。まず説明サイトに行ってから本文に飛ぶ形にしてはどうか。
- ・一枚のポンチ絵で分かりやすくするのが望ましい。5分くらいの動画の開設の協力を執筆委員会・分科会に求めることも考えてみたい。
- ・併せて、国際的な情報発信力を高める必要があると考えている。英語のHPについては、広報委員会の国際発信推進分科会と協力する必要がある。

○メディアの在り方について

- ・新型コロナで「専門家」という言葉がマジックワードとなり、実体化している傾向がある。
- ・専門家の意見が分かれている中で、その情報をどのように一般に伝えていくかが、難しい。
- ・特に現在の新型コロナの関係では、記者会見の中で戦略をとっている解説をできればよい。
- ・メディアの報道も分極化の傾向にあって、新聞によって取り上げ方が違う。事実と評価を

分ける、エビデンスをもとにした学術的なレベルと政策的な反映を分けて考える必要がある。メディアの科学に対するリテラシーに課題がある。

- 情報が氾濫している中でメディアがエビデンスをしっかり取り組まないといけない。政治家とメディアと学者は三すくみの関係にあるべきが、今は政治家が力を持っている。報道と学者がもっと世界を支えなければいけないと思う。
- 7/16 の学術フォーラムはこの件について、そういうことも視野に入れて議論したい。

○次回の分科会開催について

- 7/16 の学術フォーラムの前（11：00～）に分科会を開催する予定。